



銀座の言語景観6

日本大学文理学部国文学科
日本語学基礎演習2

- はじめに
- 銀座のアンテナショップにおける言語景観
- チェーン店における言語表記の違い
- 銀座のラーメン店における言語景観について
- 臨時的掲示からみた現在の銀座
- デパートから見る銀座の今
- 海外に向けた"和"の発信の違い

 検索

第6章 デパートから見る銀座の今

6.5.デパートのパフレットにおける言語景観 (鈴木裕子)

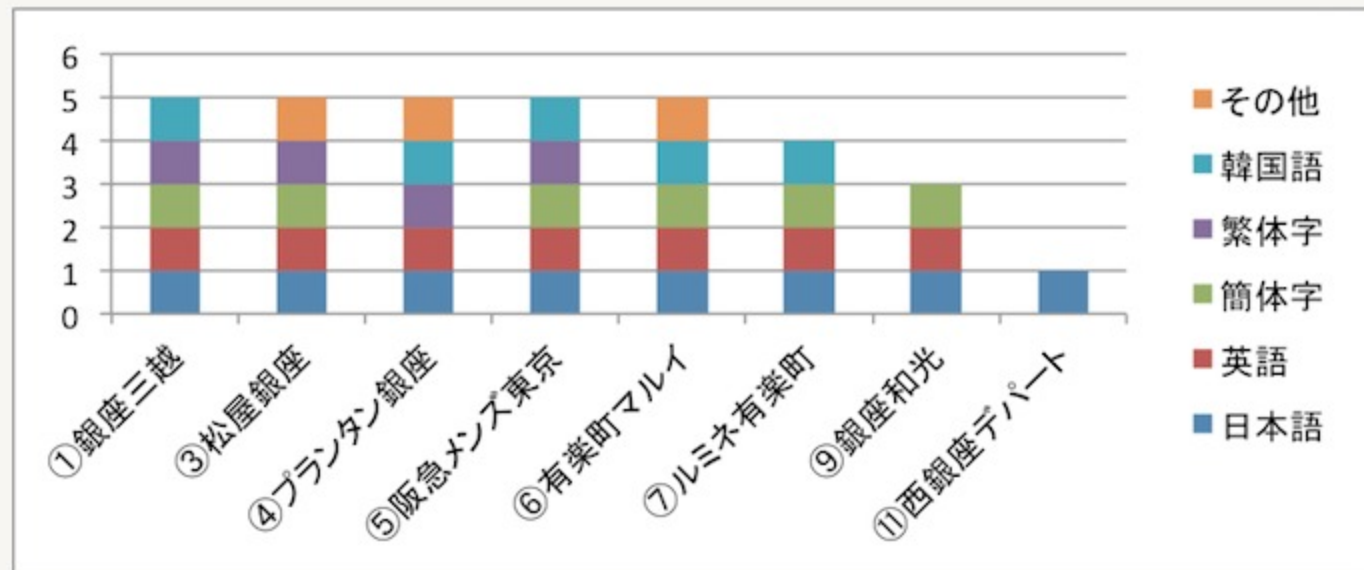


図2 言語対応状況グラフ (パンフレット)

※その他の項目は、③松屋銀座と⑥有楽町マルイにはアラビア語、④プランタン銀座にはフランス語が入る。

「銀座の言語景観5ー2015年度基礎演習2報告書ー」の5章と比較してみると、わかることが二つある。

一つ目は使用言語の増減が見られるということだ。③松屋銀座では韓国語が、④プランタン銀座では繁体字が使用されなくなっており、⑥有楽町マルイではアラビア語が、⑨銀座和光では英語と簡体字が使用されるようになった。(外国語専用のものができた)

二つ目は⑧メルサ銀座2と⑩交詢ビルでパンフレットそのものがなくなっているということだ。

③松屋銀座で韓国語が使用されなくなったことに関して、国際政府観光局 (JNTO) による『韓国の基礎データ』に基づく、韓国からの観光客の都道府県別訪問率は31.2%で1位の大阪府に対して、東京都は17.7%で3位にとどまっている。これにより韓国語がなくなったのではないかと考えた。

④プランタン銀座で繁体字が使用されなくなったことに関して、国際政府観光局 (JNTO) の『2016年訪日外客数 (総数)』の2015年の調査の時点で使用されていた繁体字、簡体字、韓国語に注目する。繁体字が使用されている香港、台湾の年間の伸率を見てみると、それぞれ20.7%と14.0%になっていた。一方、簡体字が使用されている中国は28.0%、韓国は28.1%となっていた。このことから、より将来性のある国の観光客にターゲットを絞るために、繁体字が使用されなくなったのではないかと考えた。

アラビア語に関しては、国際政府観光局 (JNTO) のホームページに2011年6月17日掲載された『JNTOアラビア語サイトを開設』という記事に「富裕層も多く、旅行やショッピングにかかる金額が高額である」ため「今後の有望な訪日旅行市場の一つである」という評価を受けており、その影響でアラビア語が使用されているのではないかと考えた。

6.1.調査概要

6.4.デパートのフロアガイドにおける言語景観 (黒田亮平)

6.6.店内放送から見た銀座の今 (関根愛菜)